

『金融教育プログラム』 を全面改訂しました。

『金融教育プログラム』は、学校における金融教育をより効果的に進めることを目的に平成19年2月に発行し、多くの学校関係者にご利用いただいておりますが、このたび年齢層別目標や新たな指導計画例などを盛り込んだ全面改訂版を発行しました。



『金融教育プログラム』 って何？

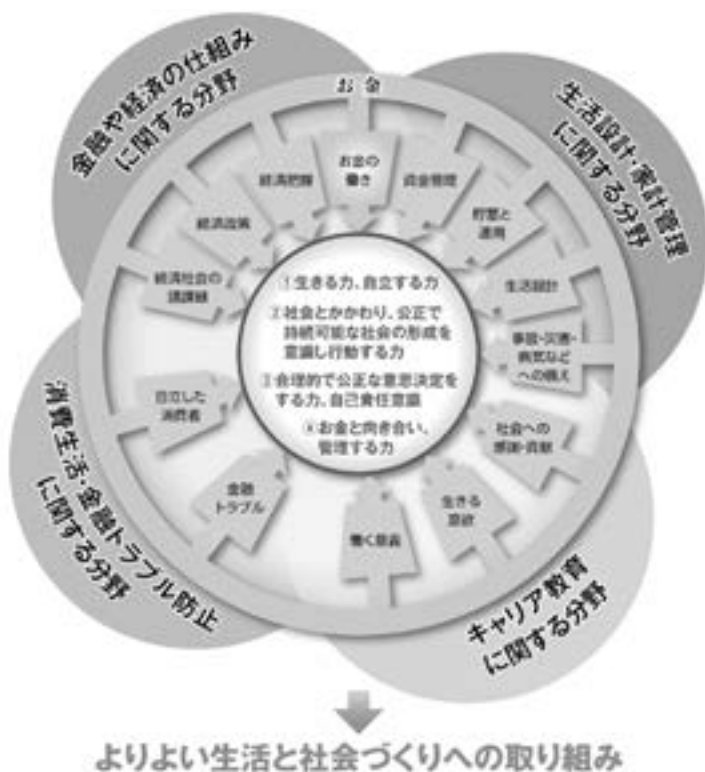
『金融教育プログラム』は、初版より、①教育関係者をはじめ多くの皆さんに金融教育の意味や必要性を広く理解いただけるようにすること、②学校の実情や学習指導要領の趣旨を十分踏まえながら、金融教育を各教科等の学習指導にどう取り込むかの手掛かりを提供すること、③授業における取り扱いの視点や指導方法を分かりやすく示すことを狙いとして作成されています。

本書において金融教育は次のように定義されています。

金融教育は、お金や金融の様々な働きを理解し、それを通じて自分の暮らしや社会について深く考え、自分の生き方や価値観を磨きながら、より豊かな生活やよりよい社会づくりに向けて、主体的に行動できる態度を養う教育である。

全面改訂版では、初版で示した金融教育に関する考え方を前提しながら、改訂された学習指導要

■図表1 金融教育の4つの分野と目指す成果



4つの分野に整理

金融教育は「お金や金融・経済全般に関して学び、社会の中で生領の内容や学校における実践の状況を反映させるとともに、児童、生徒を取り巻く様々な環境の変化などを踏まえて見直しを行いました。作業にあたっては、金融教育について造詣の深い学校の先生方や有識者から構成される「学校における金融教育推進のための懇談会」（下記）を設置し、審議をお願いしました。

◆「学校における金融教育推進のための懇談会」

学習指導要領改訂（平成20年3月、平成21年3月）後、小学校、中学校、高等学校のすべての学年で実施されるに至っていることなどを踏まえ、金融広報中央委員会では平成26年6月、「学校における金融教育推進のための懇談会」（座長・大杉昭英国立教育政策研究所初等中等教育研究部長）を設置し、『金融教育プログラム』の改訂について審議を重ねていただきました。

■図表2 学校における金融教育の年齢層別目標(抜粋:小学生の一部)

生活設計・家計管理に関する分野		年齢層別目標		
分野目標	小学校	低学年	中学年	高学年
		<p>「貯蓄」の意義について理解する</p> <p>「貯蓄」の意義について理解する</p> <p>「貯蓄」の意義について理解する</p>	<p>○ものやお金の特徴を知り、大切にすることを知ることを知る</p> <p>○欲しいものをすべて手に入れたことはできないことを知る</p> <p>○欲しいものが手に入らない場合に、我慢できるようにする</p> <p>○手帳の範囲内での管理を行うことができる</p>	<p>○ものやお金には限りがあることやお金の大切さを理解する(授業)</p> <p>○欲しいものとお金を上手に使うことなどを通じて、お金の管理を行う</p> <p>○お金の適切な使い方を知ることを通じて貯蓄・消費の大切さについて理解する(授業)</p>

学習する教科等を明記

を図式的に示したのが図表1です。これらの内容を身に付ける教育」であり、その内容は多岐に亘ります。このため、本プログラムでは、金融教育の内容を4つの分野に整理しました。これらの分野の学習を通して、生きる力や自立する力、社会との関わり、公正で持続可能な社会の形成を意識し行動する力などの育成を目指しています。これを図式的に示したのが図表1です。

金融教育の目標は、子どもたちの発達段階に応じて設定する必要があります。この点について、全面改訂版では、初版における「年齢層別の金融教育内容」をより精緻化し、「学校における金融教育の年齢層別目標」(図表2)として収録しました。具体的には、初版における4分野、年齢層別(小学生低学年・中学年・高学年、中学生、高校生)の体系を維持しつつ、①学習指導要領の改訂を反映し、②全国の学校における取り組み状況を踏まえるとともに、③社会経済情勢の変化等を考慮して保険・資産運用に関する内容を充実しました。また、④年齢層別目標の各項目の末尾に、学習指導要領または同解説に照らし、学習する教科等を明記しました。実際に学校で金融教育を実施する際の参考になるものと思われま。

これらの目標を達成していくことにより、高等学校卒業までに社会の中で生きる力をつけることができると考えています。その意味で、「年齢層別目標」は金融

「年齢層別目標」は 羅針盤

授業で活用できる 多彩な指導計画例

教育を実践する上でのいわば「羅針盤」ともいえます。

各教科等において金融教育をどのように実践したらよいのでしょうか。また、体験的な学習を取り入れる際にどのような工夫が考えられるのでしょうか。このような問いに答えるのが多彩な指導計画例です。全面改訂版では収録内容の見直しを行い、新たに収録した7事例を含め、合計23の指導計画例を収録しました。また、各指導計画例において、「年齢層別目標」との関連を明確にしたほか、単元の目標と学習の評価の観点等の統一を図りました。

◆「社会保険制度」の現状と課題について、統計資料等を積極的に活用して情報収集し、グループ・ディスカッション等を通して理解・考察させる(高校1〜3学年・公民科《現代社会、政治・経済》)。

◆「買い物ごっこ」を通して、買い物の楽しさを味わい、日常生活に活んで活用しようとする態度を

ホームページでは ワークシートを掲載

養う(小学校・特別支援学級1〜4学年・生活単元学習等)。

知るばるとのホームページ(<http://www.shinjuport.jp/>)では、本プログラム(全面改訂版)に収録できなかった指導計画例(6事例)を含めて掲載しています。また、実際の授業で使用できるワークシートや資料類をPDFファイル形式で掲載しており、ダウンロードして活用できますのでご利用ください。

冊子をご利用になりたい方は左記の宛先にメールまたはファックスにてご連絡ください。

●メールアドレス books@saveinfo.or.jp

●FAX番号 03-3510-1373

件名: 刊行物請求

記載事項: ①申込者氏名、②郵便番号、③送付先住所、④電話番号、⑤刊行物名称(「金融教育プログラム」)・希望部数、⑥利用目的・利用日、⑦その他連絡事項

宛先: 金融広報中央委員会刊行物担当

●メールアドレス books@saveinfo.or.jp

●FAX番号 03-3510-1373

件名: 刊行物請求

記載事項: ①申込者氏名、②郵便番号、③送付先住所、④電話番号、⑤刊行物名称(「金融教育プログラム」)・希望部数、⑥利用目的・利用日、⑦その他連絡事項